

2 学年 1 組 算数科 学習構想案

日 時 令和 6 年 10 月 10 日 (木) 第 5 校時
場 所 2 年 1 組 教室
指 導 者 教諭 沢村 智子

1 単元構想

単元名	かけ算 (1) (啓林館「わくわく算数 2 (下)」P 2～23)	
単元の目標	(1)乗法の意味やその計算の仕方を理解し、2～5の段までの九九を暗唱したり、乗法の適用場面を式に表して答えを求めたりすることができる。 (2)操作活動等をもとに1つ分の大きさや積の増え方のきまりに着目し九九を構成することができる。 (3)かけ算九九の構成に進んで関わり、ふり返りを通して累加の簡潔な表現としてかけ算の式にかくことよさや九九のよさに気づき、生活や学習にいかそうとする。	
単元終了時の児童の姿 (単元のゴールの姿・期待される姿)		
「(1つ分の数) × (いくつ分)」というかけ算の意味や式について理解し、2～5の段の九九を構成して暗唱することができるとともに、かけ算になる場面を見つけて生活や学習にいかす児童。		
本単元で働かせる見方・考え方		
「1つ分の大きさが同じであること」「同じ数のいくつ分」「(1つ分の数) × (いくつ分)」というかけ算の意味を理解し、同数累加で積を求めたり「かける数が1増えると、かける数だけ答えが増える。」というきまりを活用して九九を構成したりすること。		
本単元で特に育成を目指す学び方のスキル		
★1 「学習の見通し」のスキル	★2 「学習の進め方 (学習形態)」のスキル	
単元全体の見通しや1単位時間の学習の流れの見通しをもつことができるようにする。	一人学びやペア学習などの学習形態を経験する場を設定する。	

指導計画 (16時間取扱い 本時3 / 16時間)

次	主な学習活動
1	<ul style="list-style-type: none"> ・1年「同じ数ずつ」の復習をする。 ・具体的な操作を通して、基準量のいくつ分という見方について理解する。〔知①〕 ・何個のいくつ分の表し方や計算の仕方について考えていくという単元の課題をつかむ。〔主①〕 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 【単元を通したためて】「□この○つ分」のような数の表し方や計算のしかたを調べていこう。 </div>
2	1 いくつ分とかけ算 ・基準量のいくつ分という見方を働かせて、かけ算の意味を理解し、式に表す。〔思①〕 ★かけ算の用いられる場面を式に表し、その答えを累加で求める。〔知②〕 身の回りから、かけ算の式に表せる場面を見つける。〔主②〕 (本時) 2 何ばいとかけ算 ・基準量のいくつ分という見方をもとに何倍の意味を理解し、かけ算の用いられる場面について理解を深める。〔知③〕 3 かけ算の九九 ・乗数が1ずつ増えると答えがかけられる数ずつ増えることを使って5・2・3・4の段の九九を構成する。〔思②③④⑤〕 ・九九の唱え方を知り、九九を用いて適用問題を解く。〔知④⑤⑥⑦〕 ・九九のよさに気づき、粘り強く身につけようとする。〔主③〕 ・基準量が後に示された問題を、かけ算の式に表して九九を使って解決する。〔思⑥〕
3	・練習問題を解き、かけ算の意味と2～5の段の九九の理解を確認をする。〔知⑧思⑦主④〕

2 児童の学びの実態と教師の手立て

【学び方のスキル】

「学習の見通し」については、単元全体の見通しと1単位時間の学習の見通しがあり、児童と共有することが大切である。単元全体の見通しは、単元の導入や1単位時間の導入においてゴールの姿を確認してきた。本単元では、具体的な単元計画 (どんな学習を・何時間で進めるか) も児童と共有したい。1時間の流れについては、「課題」「情報集め」「整理・分析」「まとめ」「振り返り」として、見通しを持って学習に取り組めるようにした。

「学習の進め方 (学習形態)」については、自分の考えがもてた児童同士が流動的なペアで考えを交流することで多様な考えに触れさせることはできていた。しかし、自分の考えがもてない児童の交流の場が少なかったり、交流しても考えの出し合いで終わったりすることが多かった。本単元では、課題解決のために必要な情報を得たり確かな考えを形成したり多様な考えに触れたりさらに考えを深めたりするために、他者との協働が必要であることを意識した交流を目指したい。具体的には、Skyメニュー発表ノート (ライブ公開提出箱作成) を活用して、ペアを作る前に端末上で自由に他者参照したり、質問をする相手や考えを交流する相手を選んだりできるようにし、上学年の学び方につなげたい。また、キーワードを使うように促したりそれ以外の教材教具も課題解決の手段として選択できるようにしたりし、話す場を増やすことで分かりやすく説明したり考えを深めたりできるようにしたい。

【見方・考え方】

算数科における数学的な見方・考え方は、学習指導要領解説算数編によると、「事象を、数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考えること」と示されている。算数の学

習において、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考をしていくのかについては、単元の導入や1単位時間の導入で既習事項や既習事項との違いを確認する程度だった。自分の考えをノートに説明まで書くことができ、友達と説明し合う中で表れた見方・考え方をふりかえりに記述していればみんなの前で紹介してきたが、半数に満たないことが多かった。できるだけたくさんの方の方法を考えさせたとき、多様な考えの中から「はやく(速く)・かんたん(簡単)・せいかく(正確)・どんなときも使える」の視点で、自分に合う方法を選ぶという経験もしている。本単元では、「同じ数のいくつ分」「1つ分の数」「いくつ分」「全体の数」という見方・考え方を働かせることを意識して学習を進められるよう、「算数の目(見方・考え方)」として提示していきたい。また、本時で取り扱う問題3と問題5②は連続量についてのかけ算である。前時に学習したかけ算の意味や表し方についてそれを連続量の場面に広げたり、基準量を示す絵からかけ算の式にかいたりしてかけ算の意味の理解を深めていきたい。

3 本時の学習

(1) 本時の目標と学び方のスキルの具体

本時の目標	かけ算の用いられる場面を式に表し、その答えを累加で求めることができる。	
本時における、児童の学び方のスキルの具体		
	★1「学習の見通し」のスキル	★2「学習の進め方(学習形態)」のスキル
	単元のゴール・身に付けたい力と、学習の流れ(かだい→じょうほうあつめ→せいり・ぶんせき→まとめ・ひょうげん→ふりかえり)を意識し、単元全体や1単位時間の学習の見通しをもっている。	一人学びやペア学習などの学習形態を経験する場を設定しペア学習では分からないところを尋ねたり自分の考えを伝えたりしながら、自分の考えをもったり深めたりできるようにする。
本時において働かせる、児童の見方・考え方の具体		
同じ数のいくつ分になっているものを、「1つ分の数×いくつ分=全体の数」のかけ算の式に表すこと。		

(2) 本時の展開

過程	時間目安	児童の学習活動例 (◇予想される児童の発言や考え・発問 指示 説明 ◎主発問 ○深める発問 ★児童の学び方のスキル)	指導上の留意事項 (★スキル発揮に繋がる教師の支援, ○教科の特質に応じた支援, □その他の支援)
導入 課題設定・情報収集	10分	<p>1 前時までの学習内容を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇昨日までの学習で、どんなことが分かりましたか。 ◇同じ数ずつ。□この○つ分。 ◇□この○つ分は、□×○の式で表すことができる。 ◇1つ分の数×いくつ分=全体の数 ◇同じ数のたし算をすると、答えを求めることができる。 <p>2 本時の学習課題を知る。</p> <p>【課題設定】★1</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇高さが5cmの箱を4箱積んだ時と、高さが6cm, 5cm, 4cm, 3cmの箱を積んだ時とで、かけ算の式に表せそうなのはどっちかな。 ◇5cmの箱を4箱積んだ時。 ◇高さが6cm, 5cm, 4cm, 3cmの箱を積んだ時。 ◇どちらも、かけ算の式に表せる。 ◇どちらも、かけ算の式に表せない。 <ul style="list-style-type: none"> ◇今日は「どんなときに、かけ算の式にかくことができるのかな。」ということを考えていきましょう。 ◇課題をノートに書き、みんなで読みましょう。 <p>【かだい】どんなばめんのときに、かけ算のしきにかくことができるのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇(問題3を提示し)、問題文を読みましょう。 ◇高さが5cmの箱を積みます。4箱積むと、全部で高さは何cmになりますか。 <p>【情報収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇1箱の高さは何cmですか。 ◇5cm ◇いくつ分ありますか。 ◇4つ分 ◇5cmの4つ分は、かけ算の式に表せそうですか。 ◇はい ◇では、問題を解いてみましょう。式・答え・図を発表ノートにかいてください。友達と話し合うときは、ぜひ、キーワードを使ってください。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇前時までの学習「□この○つ分は□×○の式で表すことができる。」「1つ分の数×いくつ分=全体の数」ということを押さえる。 <p>【児童が見方・考え方を働かせるための手立て】</p> <p>○かけ算の学習の算数の目「同じ数のいくつ分」「1つ分の数」「いくつ分」「全体の数」を使いたいキーワードとして提示する。</p> <p>★1「学習の見通し」のスキル</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇単元の学習計画を提示し、本時の主な学習内容を確認する。また、1時間の学習の流れを提示し、学習の進め方の見通しを持たせる。 <ul style="list-style-type: none"> ◇例題から、かけ算の式に表せる場面と表せない場面を比較させ、児童と話し合いながらどんな場面の時にかかけ算の式に表せるのかという課題を設定する。 <ul style="list-style-type: none"> ◇ノートに書いたりみんなで唱えたりさせて本時の課題を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ◇課題の答え(まとめ)を見つけるために、問題を解くことを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ◇問題文から、解くための情報(分かっていること・お尋ね)を収集させる。 <p>★整理分析の段階で使用使用するSkyメニュー発表ノートと同じものを提示し、図・式・答えをかくことを確認し、見通しをもたせる。</p> <p>【児童が見方・考え方を働かせるための手立て】</p> <p>★話し合うときにたくさん話せるように、Skyメニュー発表ノートの資料欄にはキーワードを入れておく。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">展開 整理分析</p>	<p>【整理・分析】★2</p> <p>3 問題3を解いたり話し合ったりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇自分の考えをSkyメニュー発表ノートにかく。自分で選んで、ヒントになる絵カード、ブロック、計算機などを自分で選んで使用する。 ◇友達の発表ノートを参考にし自分の発表ノートにかく。 ◇友達と交流し、自分の考えを説明する。 ◇友達と交流し、友達の考えを聞きよいところを見つける。 ◇友達と交流し、友達の考えを参考に自分の考えをかく。 <ul style="list-style-type: none"> ・どんな式になりましたか。 ◇しき $5 \times 4 = 20$ <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ、その式になったのですか。 ◇5cmの4つ分だからです。 <ul style="list-style-type: none"> ・答えはどうやって出しましたか。 ◇$5 + 5 + 5 + 5 = 20$ ◇5を4回足しました。 <p>4 もんだい4を解いたり話し合ったりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（問題4を提示し）、問題文を読みましょう。 ◇6本の5つ分は何本ですか。 <ul style="list-style-type: none"> ・この問題は、かけ算の式にかけそうですか。 ◇はい。 <ul style="list-style-type: none"> ・では、問題を解いてみましょう。 <p>【まとめ・表現】</p> <p>5 かけ算の問題を2問解いて気づいたことを発表し合い、まとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題をやってみて気づいたことはありませんか。 ◇1つ分は□こずつ、□の○つ分で□×○とかけ算の式に表せる。 ◇同じ数のたし算をして、答えを出せる。 <ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習のまとめをしましょう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【まとめ】(同じ数のいくつ分)になっているときは、かけ算のしきに書くことができる。 答えは、(同じ数のたし算をして)出すことができる。</p> </div>	<p>★2「学習の進め方」のスキル</p> <p>★児童は自分の考えをSkyメニュー発表ノートにかくようにする。児童が自由に操作できる挿絵や答えをかく枠を準備しておく。ライブ公開提出箱を作成して自由に友達の考えを見ることができるようにし、参考にし自分の考えに取り入れたり、交流の相手(かけた児童同士が説明し合う・かけていない児童が相談する・かけている児童がかけていない児童にアドバイスをするなど)を見つけたりして、目的を明確にして交流できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師は手持ちのタブレットで児童の発表ノートを確認したり交流の様子を見たりしながら、ヒントを与えたり友達との交流を促したりキーワードを使っているかと声かけをしたりする。 ・実物やブロック等も準備しておき、自分で選んで問題を解く際に使ったり、自分の考えを確認するために使ったり友達に説明するときに使ったりできるようにする。 ・全体で、□の○つ分だから式は□×○になること、□を○つ足して答えをもとめることができることを確認する。 <p>【児童が見方・考え方を働かせるための手立て】</p> <p>○キーワード「同じ数のいくつ分」「1つ分の数」「いくつ分」「全体の数」を使って、児童の気づきをまとめていく。</p>
	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">まとめ・表現</p>	<p>6 練習問題を解く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習問題を解きましょう。式と答えをノートに書きましよう。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">終末 振り返り</p>	<p>【振り返り】</p> <p>7 本時のふりかえりをノートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日のふりかえりをノートに書きましよう。 <p>8 次時の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何倍という言葉とかけ算の関係について学習します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りの視点を提示し、書き出しの例や過去の友達の振り返りを参照してもよいことを伝えておく。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【具体的評価規準】知技②(方法: Skyメニュー発表ノート・発言・ふりかえり) かけ算のしきにかけるのは、同じ数のいくつ分のときで、図・式・答えに表すことができる。</p> </div>